

平成 29 年度
三条市学校給食残量調査
結果報告書

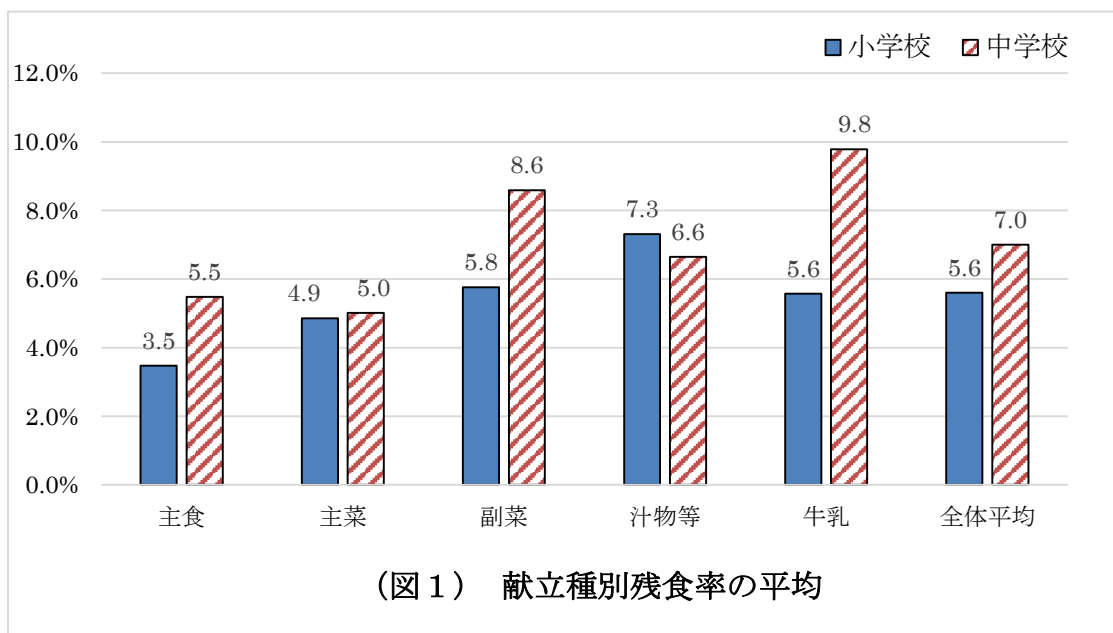
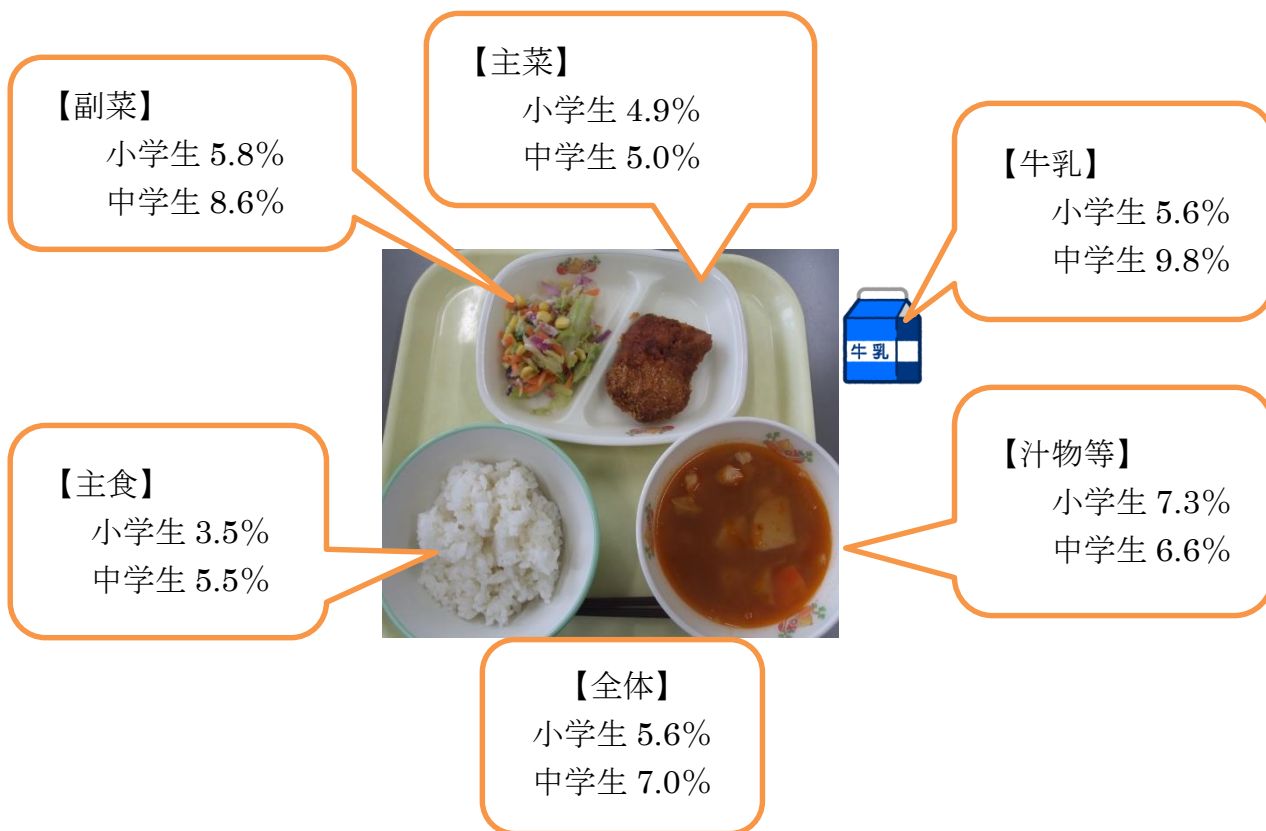
三条市教育委員会 教育総務課

平成 29 年度三条市学校給食残量調査

- 1 目 的 今後、パンや麺の提供再開やドリンクタイムの見直しが検討されており、現在の残量を正確に把握する必要があるため。
- 2 期 間 平成 29 年 11 月 13 日（月）から 17 日（金）までの 5 日間
（嵐南学校給食共同調理場以外）
平成 29 年 11 月 6 日（月）から 10 日（金）までの 5 日間
（嵐南学校給食共同調理場）
学年行事等で実施できない日を除く。
- 3 調査対象 全小学校 3・4 年生及び全中学校 1・2 年生
- 4 調査方法
 - (1) 提供量（kg）と残食量（kg）を計量し、残食率（%）を算出した。
 - (2) 主食と牛乳は学校で計量し、その他は調理場で計量した。
 - (3) 調理場ごとの献立で実施した。
 - (4) 残量調査を実施することを、児童生徒には伝えなかった。
- 5 その他
昨年までと実施期間や周知方法が異なるため、結果を比較することはできない。

6 結果概要

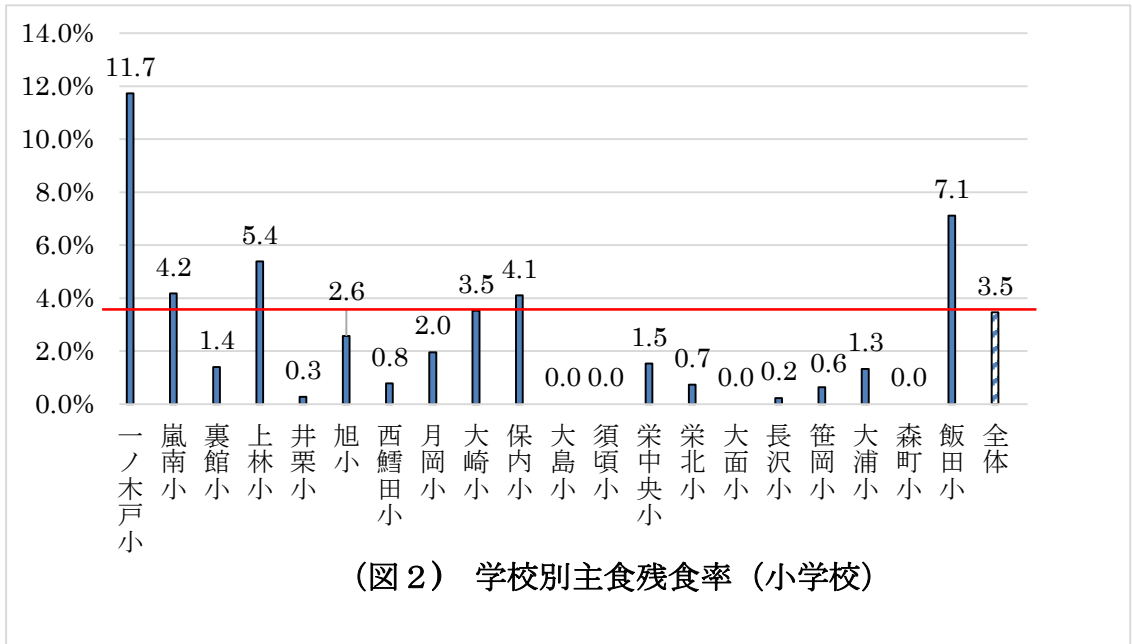
(1) 全体の残食率



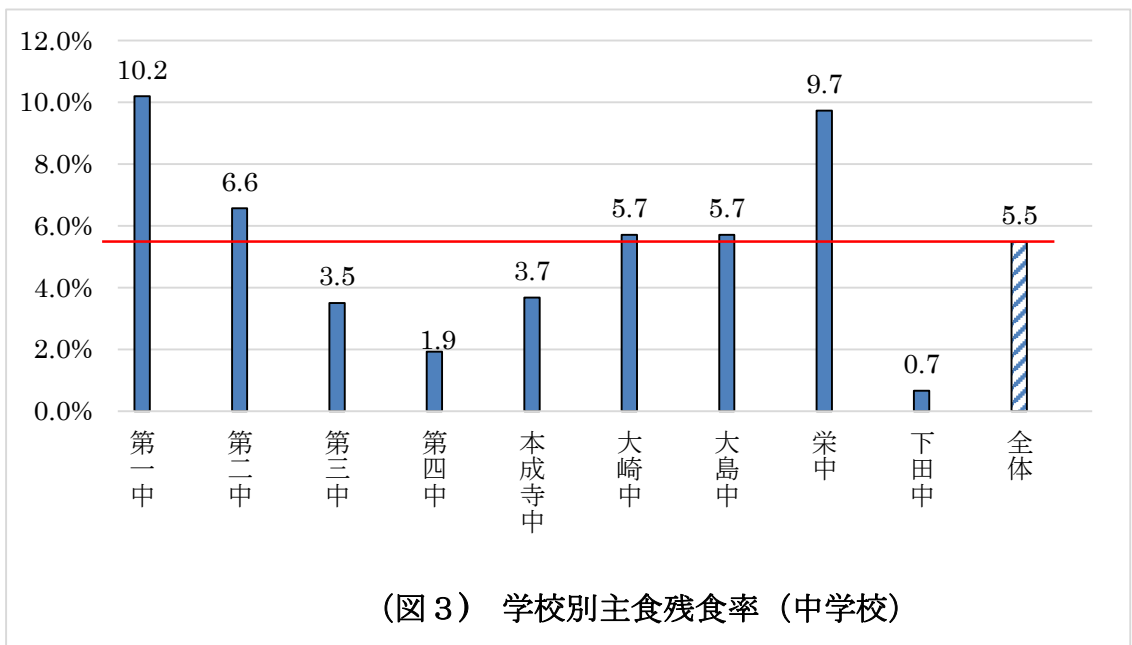
(2) 献立種別別残食率

ア 主食

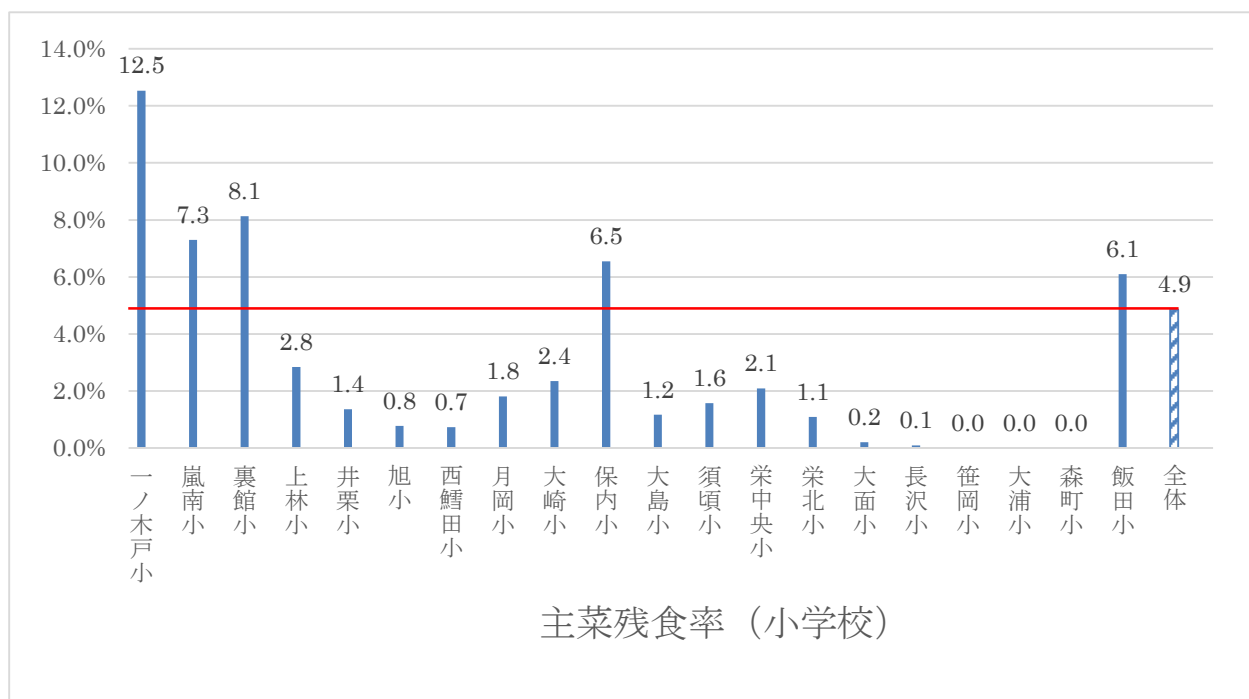
(ア) 小学校



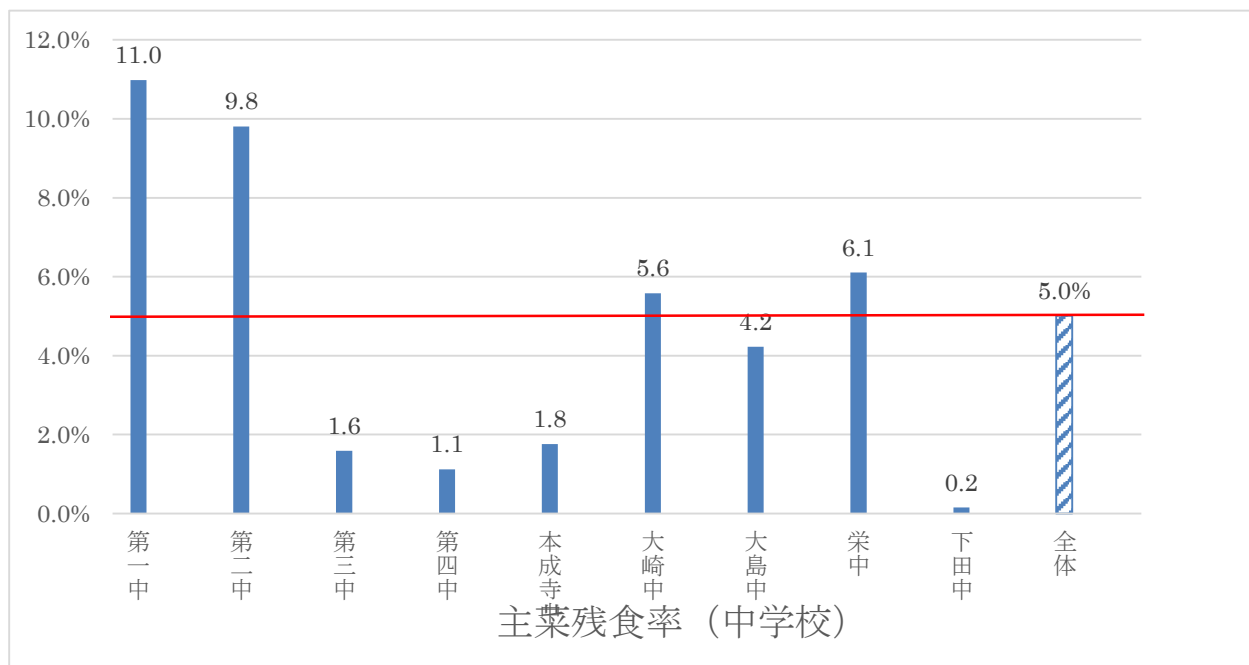
(イ) 中学校



イ 主菜
 (ア) 小学校

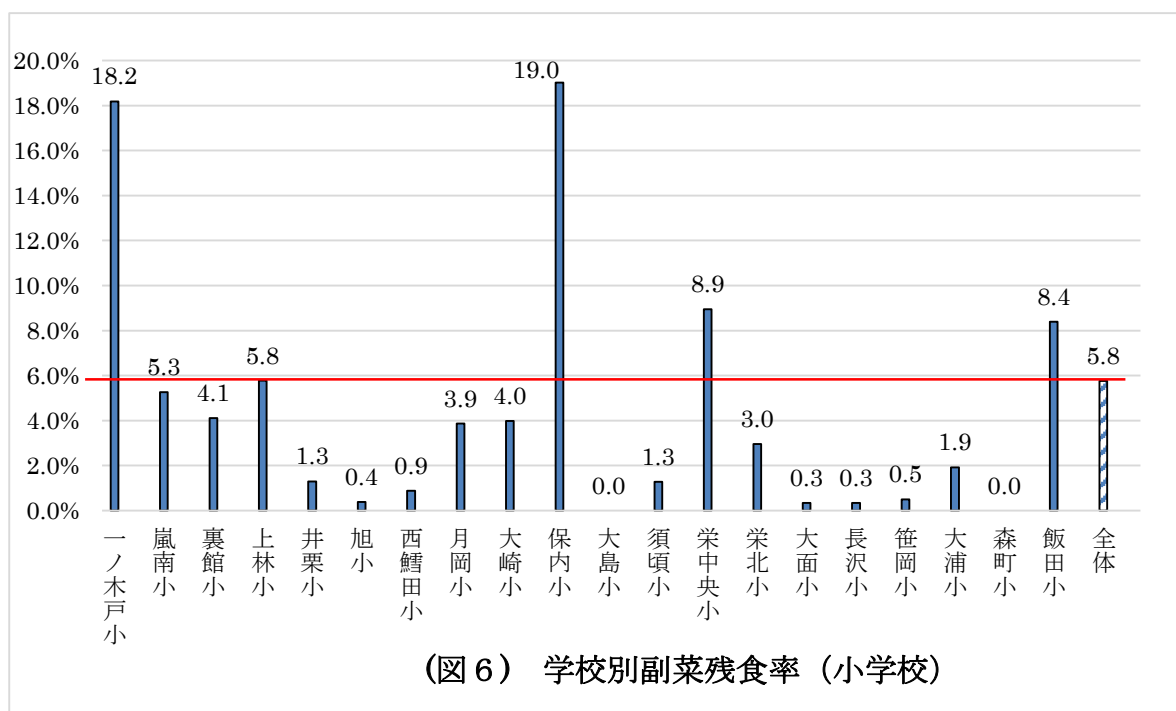


(イ) 中学校

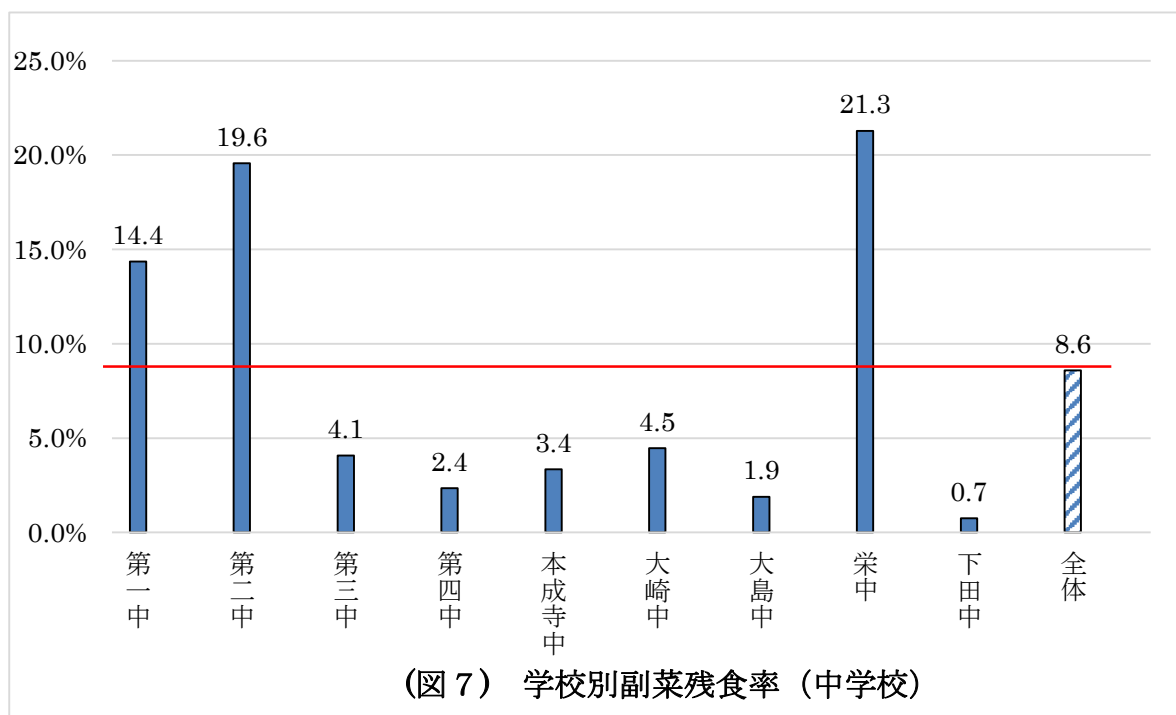


ウ 副菜

(ア) 小学校

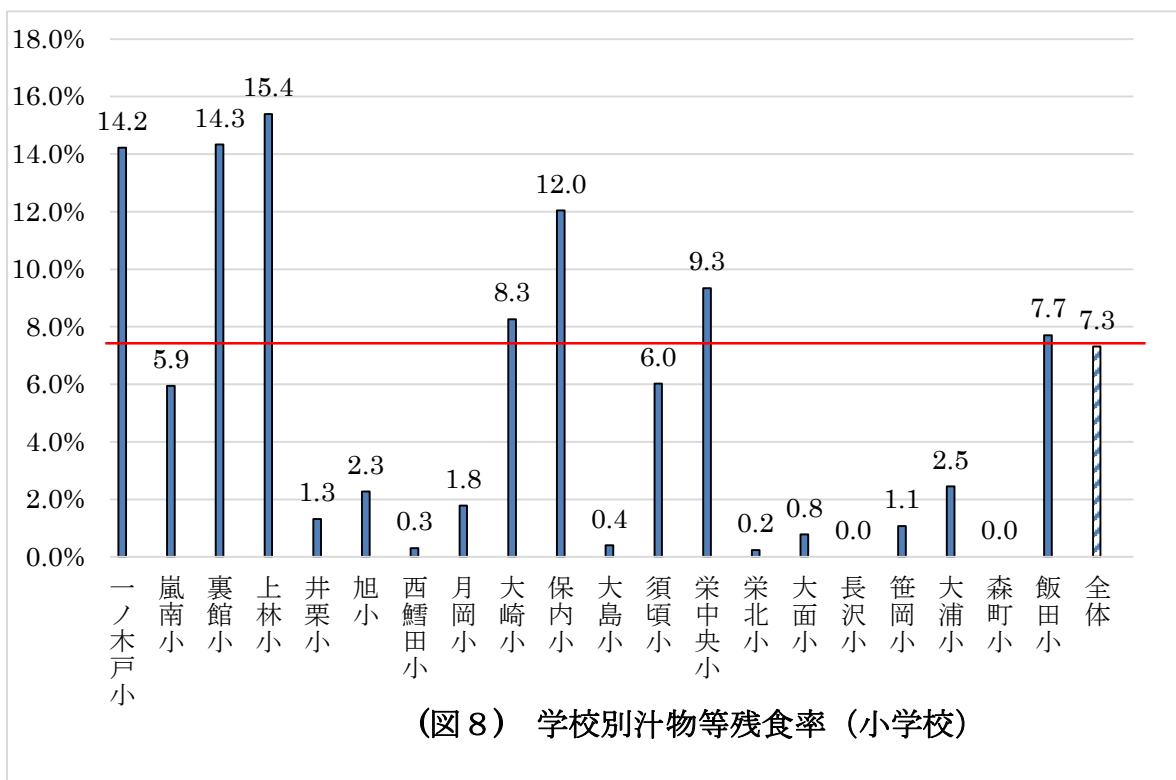


(イ) 中学校

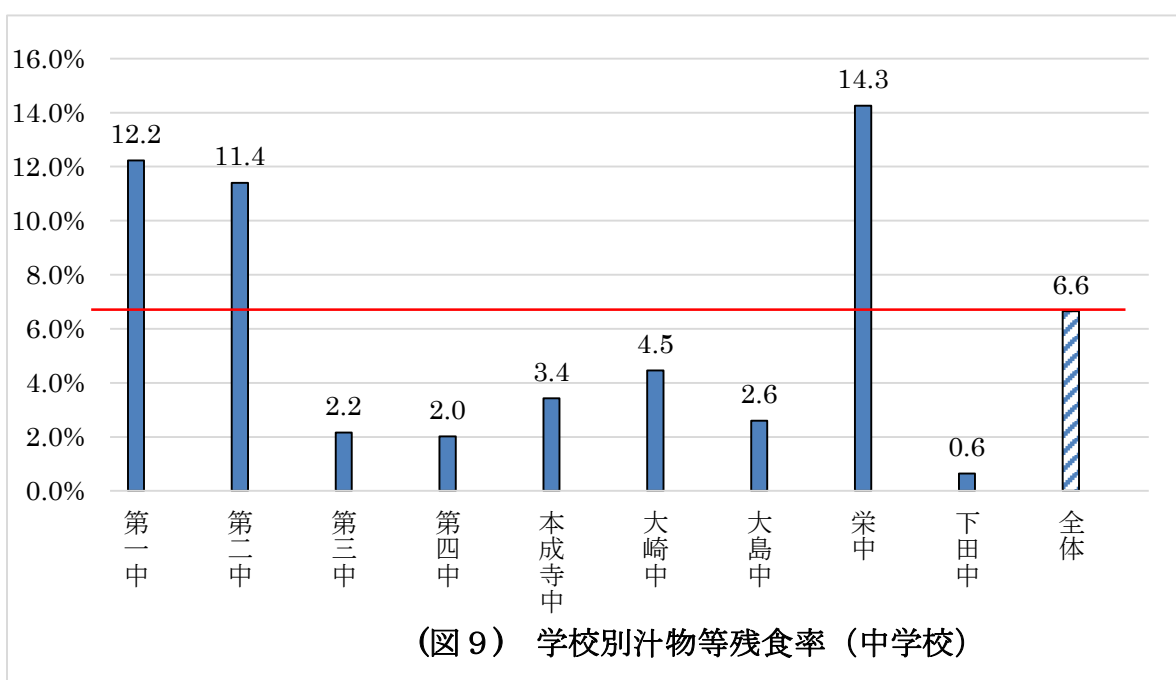


エ 汁物等

(ア) 小学校

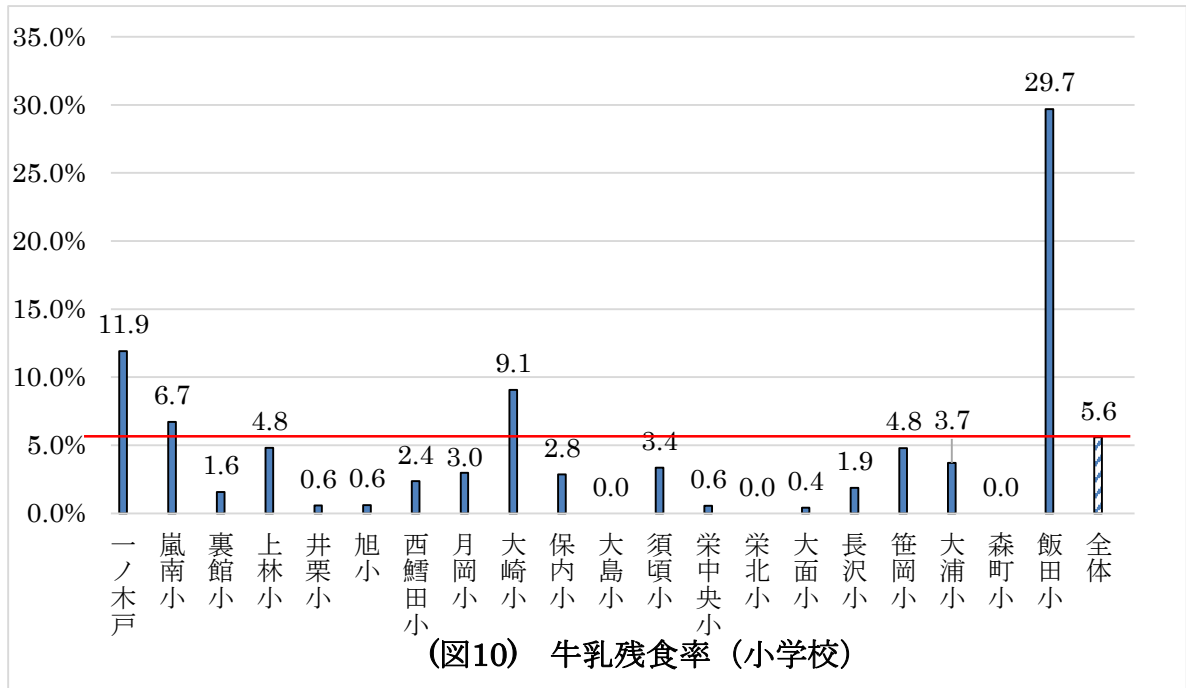


(イ) 中学校

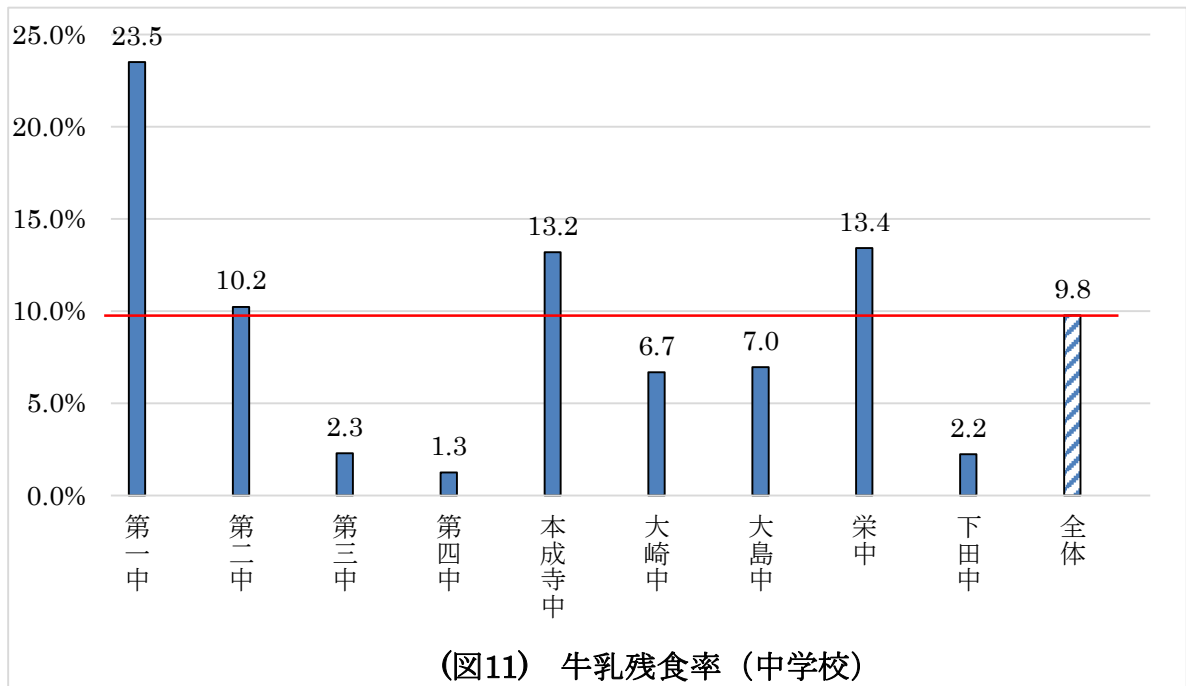


オ 牛乳

(ア) 小学校

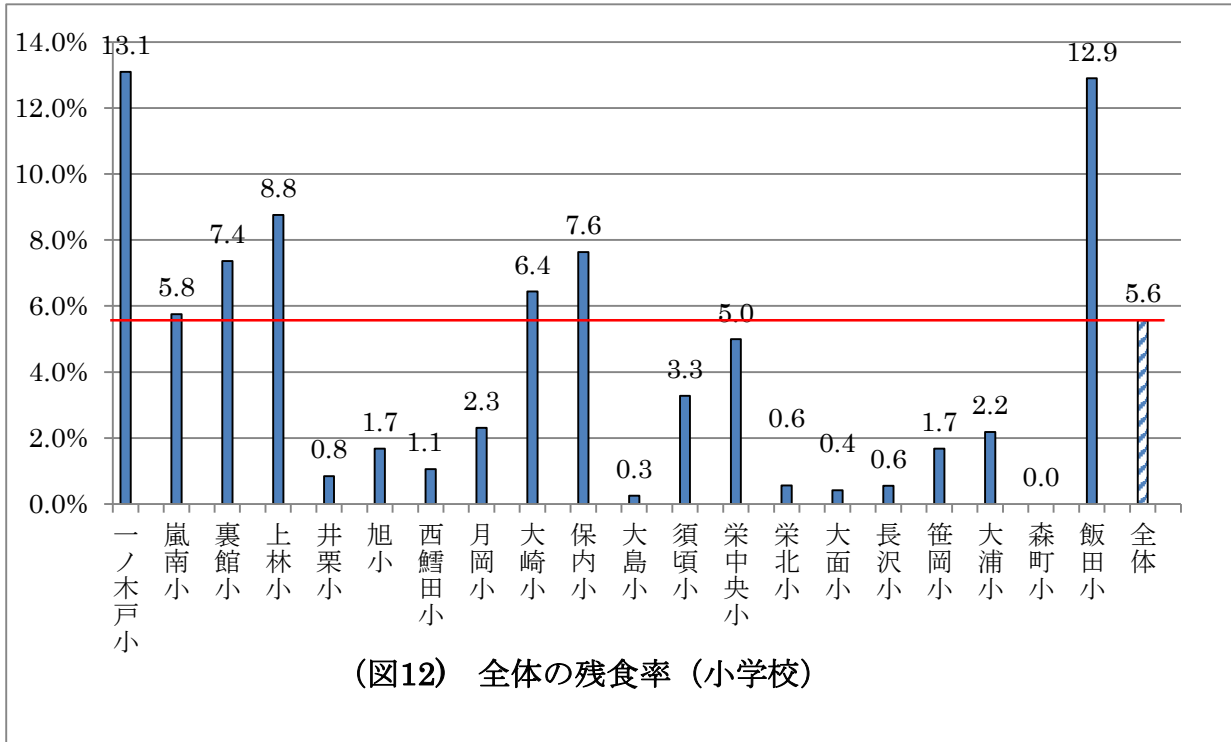


(イ) 中学校

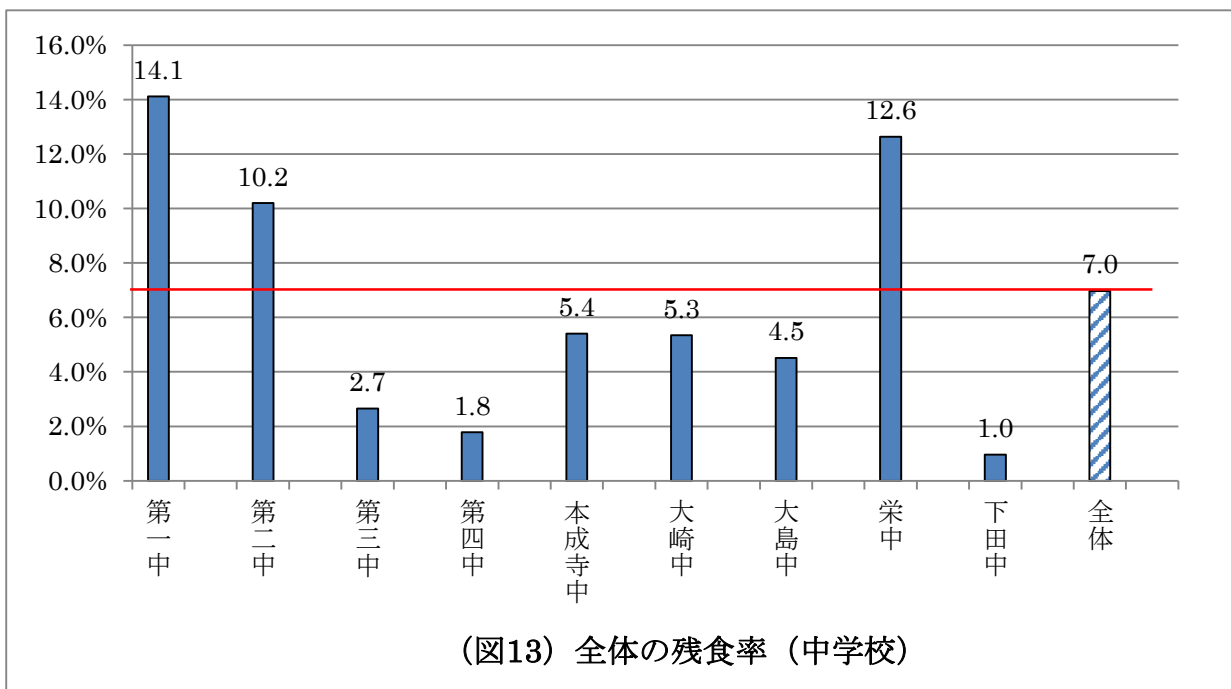


カ 全体の残食率

(ア) 小学校



(イ) 中学校



7 考 察

学校給食における残食率の平均値は、環境省の調査によると6.9%であり※、本調査でもそれと同等の結果が得られた(図12、13)

献立種別では、小学校で主食(ご飯)が最も残食率が低かった(図1)。パンや麺を食べたい、食べさせたいという児童生徒や保護者からの声はあるが、完全米飯給食が定着し、しっかりと食べられていることが分かった。

また、肉や魚などを主体とした主菜に比べ、野菜を主体とした副菜や汁物で残食率が高くなっており、野菜を苦手とする児童生徒が多いことが推察される(図1)。

学校別の残食率を見ると、小学校で全体の残食率が低い森町小学校、大島小学校及び大面小学校(図12)、中学校で全体の残食率が低い下田中学校、第四中学校及び第三中学校(図13)では、いずれも牛乳の残食率も低くなっている(図10、11)。逆に、小中学校ともに全体の残食率が一、二番目に高い学校は、牛乳の残食率も一、二番目に高くなっている。このことから、給食をしっかりと食べている学校では牛乳もしっかりと飲まれていることが分かった。

8 今後の取組

調査の結果から、子どもたちの生涯にわたる健康的な食習慣の定着を目指し、教育委員会として次の取組を行う。

- (1) 学校給食では、引き続き地場農産物を活用した和食を主体に提供する。
- (2) 食に関する指導や給食指導において、和食の持つ栄養的及び文化的な価値を伝え、食事を育む。
- (3) 給食を適切な食事量を知る重要な機会として、均等に配食する。
- (4) 給食時間を十分確保するため、給食準備に早く取り掛かる。
- (5) 生産者交流会の開催等、食の源である農業との接点を持つよう努める。
- (6) 給食主任、食育担当者、食物アレルギー担当者、養護教諭、栄養教諭等が、日常の給食指導に関わる学級担任と協力して(1)~(5)の取組を進める。

※ 環境省 H27 学校給食から発生する食品ロス等の状況に関する調査結果について